

平成30年度

庄内自然博物館構想推進協議会

日 時：平成30年4月19日（木）10:00～12:00

会 場：鶴岡市自然学習交流館 ほとりあ

…… 次 第 ……

1. 開 会

2. 挨 拶

3. 協 議

(1) 平成29年度事業実績について

(2) 平成29年度収支決算について

(3) 平成30年度事業計画（案）について

(4) 平成30年度収支予算（案）について

(5) 平成30年度庄内自然博物館構想推進協議会の体制（案）について

(6) ラムサール条約登録湿地10周年記念事業について

(7) その他

4. その他

(1) 高館山散策路について

(2) 上池・下池の築堤安全点検調査の結果について

(3) 旧加茂トンネルの通行について

5. 閉 会

平成30年度 庄内自然博物館構想推進協議会 委員名簿 [H29-H30]

NO	所属団体	所属役職	協議会役職	氏名	備考	出欠
1	鶴岡市大山自治会	会長	会長	櫻井 修治	役職変更なし	○
2	鶴岡市西郷自治会	会長	副会長	佐藤 建三	役職変更なし	×
3	鶴岡市加茂地区自治振興会	会長		田中 正志		×
4	鶴岡市湯野浜地区自治会	会長		阿部 喜美男		×
5	出羽商工会	大山支部代表理事		大瀧 郁夫		×
6	大山観光協会	会長		遠藤 武		○
7	JA鶴岡大山支所	支所長		嶋井 宏喜		×
8	JA鶴岡大山支所生産組合長会	会長		今野 聡		×
9	庄内赤川土地改良区	副理事長	監事 (H29～)	本間 松弥	役職変更なし	×
10	西郷土地改良区	理事長	監事 (H29～)	阿部 和夫	役職変更なし	×
11	大山公園再生協議会	副会長		阿部 清二郎		○
12	庄内森林管理署	署長		木村 和久	伊東森林技術指導官 同席	○
13	羽黒自然保護官事務所	自然保護官		澤野 歩美	アケチア・レゾナンス・渋谷氏 同席	○
14	鶴岡市自然学習交流館ほとりあ	館長		富樫 均		○
15	尾浦の自然を守る会	会長	副会長	太田 威	役職変更なし	○
16	出羽三山の自然を守る会	自然教室担当		長南 厚		○
17	水野野生生物調査室	主宰		水野 重紀		○
18	朝日庄内森林生態系保全センター	所長		笠井 史宏		○
19	庄内自然博物館構想推進協議会運営委員会	委員長		平 智		○
20	庄内総合支庁産業経済部農村計画課	農林技監兼課長		山平 吉弘	代) 計画調整主幹 飯野氏	○
21	庄内総合支庁産業経済部森林整備課森づくり推進室	室長		伊藤 信		○
22	庄内総合支庁保健福祉環境部環境課	課長		前田 学		×
23	鶴岡市市民部	部長		白幡 俊		○
24	鶴岡市農林水産部農山漁村振興課	課長		本間 明		○
25	鶴岡市建設部土木課	課長		上野 衛	代) 道路維持係 中西主任	○
26	鶴岡市健康福祉部子育て推進課	課長		佐藤 嘉男		○
27	鶴岡市商工観光部観光物産課	課長		永壽 祥司	代) 後藤主事	○
28	鶴岡市教育委員会学校教育課	課長		尾形 圭一郎		○
29	鶴岡市教育委員会スポーツ課	課長		齋藤 匠	代) 高橋修也 課長補佐	○
30	庄内自然博物館 (仮称) 構想地域推進協議会	元会長	相談役	中浜 裕		○
31	鶴岡市自然学習交流館ほとりあ	元館長	相談役	植松 芳平		○
32	庄内自然博物館構想推進協議会	前会長	顧問	橋本 正輝		○
33	鶴岡市自然学習交流館ほとりあ	前館長	顧問	遠見 昌圀		○
事務局	鶴岡市市民部環境課	課長		伊藤 慶也		
事務局	鶴岡市市民部環境課	主事		佐藤 英世		
事務局	鶴岡市市民部環境課	主事		鉦谷 知朗		
事務局	鶴岡市市民部環境課	学芸員		上山 剛司		
前任	鶴岡市市民部環境課	専門員		吉田 修		

3. 協議

(1) 平成29年度事業実績について

—会議経過報告—

1. 協議会

期 日：4月20日（木）

会 場：鶴岡市自然学習交流館「ほとりあ」

協議内容：役員を選任、設置要綱の改正、

H28年度事業報告・収支決算、H29年度事業計画・収支計画等

2. 運営委員会

(1) 第1回運営委員会

期 日：5月19日（金）

会 場：鶴岡市自然学習交流館「ほとりあ」

報告内容：H28年度事業報告、経団連基金事業における採択額等

協議内容：H29年度事業計画（案）、WGの活動計画等

(2) 第2回運営委員会

期 日：11月9日（木）

会 場：鶴岡市自然学習交流館「ほとりあ」

報告内容：H29年度事業中間報告、ラムサール登録湿地10周年事業等

協議内容：寄附金事業、ラムサール10周年における地域産物利用等

(3) 第3回運営委員会

期 日：3月14日（水）

会 場：鶴岡市自然学習交流館「ほとりあ」

報告内容：H29年度事業報告、ラムサール登録湿地10周年事業、

WG活動報告等

協議内容：H30年度事業計画（案）等

—協議会事業報告—

1. 来館者数 ***別紙①参照**

○2017年4月～2018年3月の入館者数:**26,563人** 稼働日数 308日(平日 193日、土日祝日 115日)

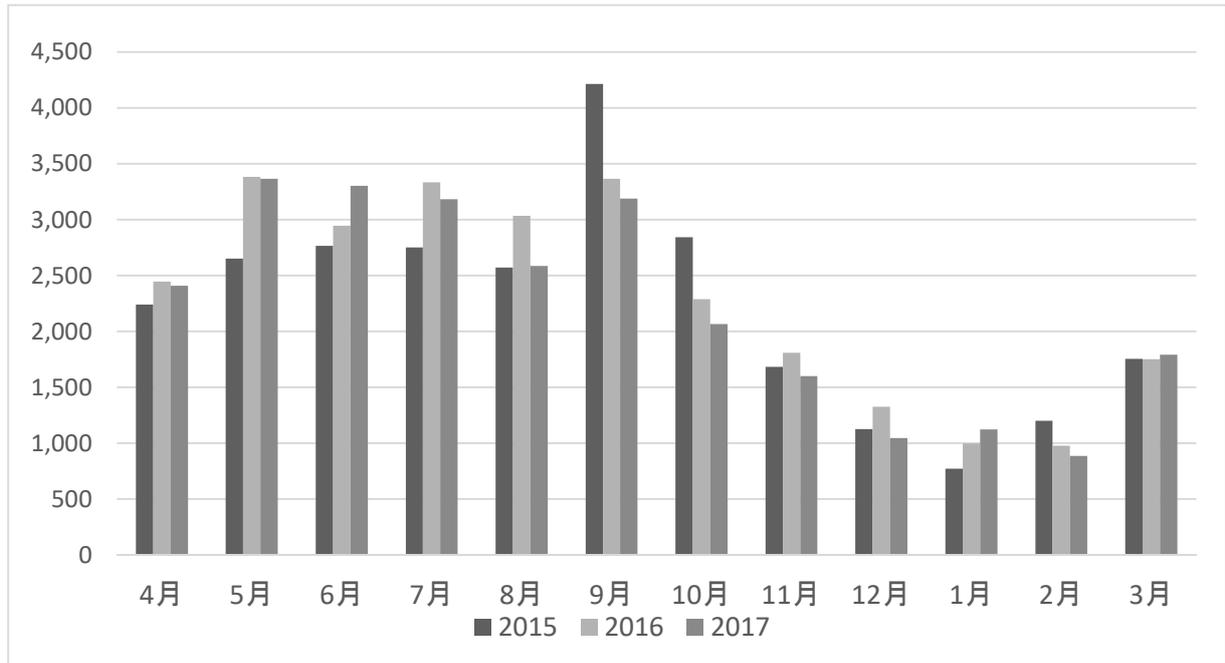
1日平均:86.2人、平日平均:65.9人、土日祝日平均:120.3人

○2016年4月～2017年3月の入館者数:**27,673人** 稼働日数 308日(平日 192日、土日祝日 116日)

1日平均:89.8人、平日平均:65.3人、土日祝日平均:130.6人

○開館からの来館者総数は、**164,699人**(2017年7月29日15万人突破)

*2015年～2017年度までの月別の来館者数のグラフを下記に示す。



2. 学習交流室

4月から3月まで70団体、1,672人(学習32、研修13、会議9、レクリエーション15、視察1)

*2016年度4月～3月 100団体、2,275人(学習44、研修11、会議14、レクリエーション30、視察1)

年度	学習		研修		会議		レクリエーション		視察		その他	
	2016	2017	2016	2017	2016	2017	2016	2017	2016	2017	2016	2017
4月	2	1	1	1	5	3	3					
5月	2	2			2	2	6		1			
6月	6	7	2		1		1	5				
7月	7	6	5	1	1		4	4				
8月	1	5		1			6					
9月	11	4		4			1	1				
10月	5	3	1	1		1	3	2				
11月	5		1	1			2	1				
12月	1	1	1	1			2					
1月	1	1		1	2	1	2	2		1		
2月	2	1		1	2	1						
3月	1	1		1	1	1						
合計	44	32	11	13	14	9	30	15	1	1	0	0

3. イベント事業報告

(1) イベント

4月～3月までのイベント参加者:1,394名 **(別紙②参照)**

里地里山学講座:5回(190名)、自然観察会:8回(137名)、散策会:8回(68名)、湿地保全管理イベント:6回(145名)、いのち学:1回(8名)、里山マルシェ:1回(220名)、地域連携事業:12回(95名)、ワークショップ:16回(330名)、クリスマスコンサート:1回(100名)、座談会:1回(11名)

*2016年度は1,598名、2015年度は1,813名

(2) 企画イベント

(2)－1. 水辺のいきもの探しスタンプカード事業

湿地のいきものに親しむことと市民参加の外来生物駆除を目的に4月下旬から10月までの期間に実施。466名の方に参加いただいた。

(2)－2. 赤とんぼプロジェクト(自然観察会として実施)

避暑地である月山でアキアカネにマーキングを施し、避暑地から産卵場所までの移動経路の解明を市民参画で行う環境学習を年3回実施。協力:水野重紀氏。

マーキング個体は2,195個体(オス:1,184、メス:1,011)。

秋には都沢湿地や庄内平野でマーキング個体の追跡を行った。

(2)－3. 里山マルシェ

9月18日(祝・月)に開催。今年は湿地の植物の活用をテーマにハスの葉を盃に見たてた象鼻杯や赤とんぼの木工クラフトづくりなど新たなアクティビティを加え、多くのサポーターの協力のもと約220名の方にご参加いただいた。

(2)－4. コハクチョウの初飛来日あてコンテスト

応募数:246名(2016年度:162名)、正解者19名(正解は10月4日(水)、下池)



水辺のいきものさがしスタンプ事業
(スタンプを集めると景品がもらえる)



里地里山学講座
(藓からの糸取り体験)



里山マルシェ
象鼻杯で早飲み競争



赤とんぼプロジェクト
(自然観察会)

4. 館内展示

4～3月までの間に、愛鳥週間野鳥切手展示（長谷川尚士氏）やポスター展示、冬の渡り鳥展示、外来生物企画展示などを開催。10月からはまったり Café 横の縁側で柿のれんを実施した。



冬の渡り鳥展示



柿のれん

5. 都沢湿地保全管理事業

(1) 外来動植物駆除

サポーターや有償事業にて、都沢湿地内の外来動植物駆除を実施。

(1) - 1. イベント実績 ***別紙③、④参照**

昨年度は5回開催を計画し、1回を悪天候のため延期としたが、その日も来館した参加者と天気を見つつ作業を実施したため、全部で6回の開催となった。一昨年度同様、植物の枯死体の堆積による

陸地化を防ぐために、どろんこ広場は草刈りおよび集草作業を実施した。各回、湿地保全管理WGの皆さんにリーダーを担ってもらい実施。参加者は上表のとおり。

6回の開催で145名（1回あたり平均24.2名）だったのに対し、一昨年度の参加者は6回の開催で137名（22.8名）であった。一昨年度より、企業による保全管理の参加もあった。

No	月 日	内 容	人 数
1	5月20日	外来生物捕獲大作戦	20
2	6月10日	外来生物捕獲大作戦②	18
3	6月16日	親水水路草刈	13
4	9月9日	都沢湿地の外来植物駆除	38
5	9月16日	大山下池の外来植物駆除	32
6	10月7日	外来動植物駆除&どろんこ広場の草刈り	24

(2) 通常管理

湿地内に生育するヤナギに関しては、ほとりあスタッフ、サポーターで冬～春にかけて伐採を実施。その他にも冬季水門の堆積物の除去などを実施。

6. 都沢湿地保全管理事業(生物編)

(1) ウシガエル成体及び幼体の捕獲状況

(1) - 1. 捕獲日数及びワナ数

6月1日～10月27日の期間に38日間、2,356罟を設置し、捕獲調査を実施。

(1) - 2. 捕獲結果

- ・【成体】799個体のウシガエル成体を捕獲。（2015年：518個体、2016年：1,139個体）
→成体799個体のうち雌雄判別できた個体は768個体。（オス：380個体、メス：388個体）
- ・【幼体】266個体のウシガエル幼体を捕獲。（2015年：2,434個体、2016年：3,564個体）

(2) アメリカザリガニ捕獲状況

(2) - 1. 捕獲日数及びワナ数：ウシガエルと同じ。

(2) - 2. 捕獲結果：10,383個体（大8,380個体、小2,003個体）のアメリカザリガニを捕獲。（2015年：11,775個体、2016年：18,880個体）

7. 都沢湿地保全管理事業(その他)

(1). 西郷土地改良区との共同作業

開館から毎年1回、西郷土地改良区と下池堤体内の外来植物駆除を実施している。
その効果なのか2017年度はアメリカセンダングサがほとんどみられなかったが、他方でオオオナモミの生育が多数確認されたので、その駆除作業を行った。

8. 調査研究

(1). 大山上池・下池及び都沢湿地の水質浄化に関する研究

調査者：山形大学農学部 助教 梶原 晶彦

(2). 大山上池・下池及び都沢湿地における植生に関する研究

調査者：山形大学農学部 教授 林田 光祐

(3). 都沢湿地のトンボ相の調査

調査者：水野野生生物調査室 主宰 水野 重紀

9. 視察研修

(1) 里地里山先進地視察

日 時：2018年2月27日(火)

視察場所：大鳥自然の家 / 注連寺(山形県鶴岡市)

参加人数：運営委員、サポーター、大山自治会、ほとりあ、環境課 計10名

内 容：①そば打ち体験、鶏の解体体験

②大鳥自然の家スタッフとの意見交換会

③加茂坂峠古道と関わりの深い鉄門海上人のお話 など

(2) 事務局先進地視察

日 時：2018年2月10日(土)

視察場所：谷津干潟自然観察センター(千葉県習志野市)

参加人数：ほとりあ、環境課 計2名

内 容：①指定管理制度による施設運営

②市民参画型事業やボランティアの関わり方について情報交換

10. サポーター活動

(1) サポーター数

2018年3月末現在のサポーター数は88名(2017年3月末時点74名)。

(2) サポーター券

2017年度のサポーター券は695枚を発行、うち検収枚数は345枚、検収率49.6%
(2016年度は590枚、うち検収枚数は392枚 検収率66.4%)

「外来生物の低密度管理による持続可能な低湿地再生手法の検討と 多様なステークホルダーの湿地再生活動への参画の可能性」

庄内自然博物館構想推進協議会

1. 事業目的

本事業では、湿地再生の課題である外来生物問題を解決するために、湿地内に外来生物の侵入防止区域を設置し低密度管理区域を試みる。低密度管理区域の設定が、その後の植生回復や多様なステークホルダーの参画、費用を含めた複合的な視点において、持続可能な湿地再生事業になるか検討することを目的とした。また、事業の実施をとおして、湿地再生がいかなる価値やサービスを生成するか多様なステークホルダーと考えることで、日本人にとって最も身近な自然環境であった湿地と人間の関係の再構築をはかることに繋がることを期待している。

2. 活動報告

(1) 多様なステークホルダーの参画による湿地管理活動

都沢湿地の低湿地再生の課題である陸地化や外来動植物の増殖の問題を解決するために、①ボランティアの参画、②地元農家の協力、③企業参画における湿地管理活動を実施した。湿地管理活動への多様な目的における参画は、湿地管理活動への参加を増加させ、今後の持続可能な湿地管理の可能性が期待できる。

(2) 外来生物の低密度管理実験

ウシガエルおよびアメリカザリガニの定期駆除事業に加え、今年度より外来生物の侵入防止区域を設置し、外来生物を低密度管理する実験を試みた。実験は以下の2つである。

① 外来生物低密度管理区 (4m×4m) の設置

プラスチックフェンスやトリカルネットなど安価で取り外し可能な素材で設置。来年度以降は、区域内の外来生物の侵入状況および動植物調査を実施。



② 人為的な外来生物排除区域の設置

人為的に 10m×10mの外来生物排除区域および水位が異なるベランダコンテナを 50 個設置。各区域の水生植物および水生昆虫について調査を実施した。

また、今年度も外来生物活用事業として、市内 2 店舗の料理店で外来生物料理を販売した。

(3) 湿地指標生物のモニタリング調査

モニタリング調査として、過去の攪乱場所や外来生物管理区域を含む都沢湿地全域の植生調査を実施した。また、6月～10月を調査期間とし、どろんこ広場を含む都沢湿地に出現したトンボ相および水生昆虫調査を行った。

(4) 人と湿地の関係の再構築のための環境教育の実践

日本人にとって、もっとも身近な自然環境であった湿地と市民の関係の再構築をはかるために、整備したどろんこ広場に地元の保育園を招待し遊んだり、湿地環境の自然学習会や観察会を開催した。また、今年度より湿地の指標種である赤とんぼの生活史を追跡するプログラムも実施した。

3. 来年度以降の活動

- (1) 外来生物の低密度管理区域内の水性動植物調査
- (2) 市民参画による外来生物の低密度管理の維持管理

(2)平成29年度収支決算について

平成29年度 自然環境学習促進事業 収支決算

収入

項目	予算額	決算額	比較	摘要
	940,000	940,004	4	
【内訳】				
助成金	940,000	940,000	0	庄内広域行政組合 庄内地方拠点都市地域事業助成金
預金利息	0	4	4	

支出

項目	予算額	決算額	残額	摘要
	940,000	940,004	△ 4	

1. 自然環境学習事業

	予算額	決算額	残額	
	320,000	368,001	△ 48,001	
【内訳】				
(1)報償費	105,000	113,338	△ 8,338	<ul style="list-style-type: none"> ・自然観察会 「都沢湿地やその周辺にすむ水生昆虫」 「赤とんぼプロジェクトin月山」 ・里地里山学講座 「繭の秘密を見つけよう！繭からの糸取り体験」 ・保全管理イベント ・里山マルシェ
(2)旅費	15,000	9,219	5,781	
(3)消耗品費	167,500	162,380	5,120	
(5)食糧費	17,500	64,551	△ 47,051	
(7)通信運搬費	15,000	510	14,490	
(11)委託料	0	16,275	△ 16,275	
(12)手数料	0	1,728	△ 1,728	

2. 企画展示事業

	予算額	決算額	残額	
	120,000	132,008	△ 12,008	
【内訳】				
(1)報償費	20,000	5,000	15,000	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとりあを活用した企画展示 「大山上池・下池にやってくる渡り鳥たち」
(3)消耗品費	100,000	125,712	△ 25,712	
(12)手数料	0	1,296	△ 1,296	

3. 自然情報発信事業

	予算額	決算額	残額	
	330,000	316,764	13,236	
【内訳】				
(1)報償費	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとりあWebサイト運営 ・ほとりあリーフレットの改訂・増刷
(6)印刷製本費	180,000	106,920	73,080	
(11)委託料	150,000	209,520	△ 59,520	
(12)手数料	0	324	△ 324	

4. 湿地調査研究事業

	予算額	決算額	残額	
	170,000	123,231	46,769	
【内訳】				
(2)旅費	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・調査用消耗品(水槽等)の購入 ・備品(高圧洗浄機・企画展示用フィルムスキャナ等)の購入))
(3)消耗品費	90,000	46,094	43,906	
(4)備品購入費	50,000	77,137	△ 27,137	
(11)委託費	30,000	0	30,000	
(12)手数料	0	0	0	

収入 940,004円 - 支出 940,004円 = 0円

平成29年度 経団連自然保護基金収支決算

収 入

単位:円

項目	予算金額	決算金額	比較	備考
自己資金・その他財源	1,210,000	1,210,004	4	鶴岡市及び庄内広域行政組合予算の一部
経団連自然保護基金	1,160,000	1,160,000	0	
雑収入(預金利息)	0	3	3	
合計	2,370,000	2,370,007	7	

支 出

項目	予算金額	決算金額	比較	備考
1. 湿地整備費				
(1)低密度管理基盤工事費	630,000	626,400	△ 3,600	・外来生物排除区域の設置 ・湿地攪乱工事 ※市予算(その他財源)
(2)攪乱工事費	500,000	500,000	0	
(3)資材購入費	130,000	159,019	29,019	
(4)手数料	0	1,620	1,620	
計	1,260,000	1,287,039	27,039	
2. 調査研究費				
(1)調査研究費	130,000	130,000	0	・調査委託研究 「都沢湿地における植生に関する研究」 「都沢湿地内における水質に関する研究」 ・有識者への調査謝礼 「都沢湿地のトンボ相」
(2)調査備品費	200,000	223,117	23,117	
(3)調査消耗品費	130,000	133,987	3,987	
(4)手数料	0	1,836	1,836	
計	460,000	488,940	28,940	
3. 普及啓発費				
(1)普及啓発グッズの開発	110,000	130,756	20,756	・消しゴムハンコ、缶バッジ等
(2)消耗品費	80,000	77,725	△ 2,275	
(3)食糧費	0	24,624	24,624	
(4)委託費	20,000	16,275	△ 3,725	
(5)手数料	0	2,052	2,052	
計	210,000	251,432	41,432	
4. 視察研修費				
(1)旅費	100,000	12,335	△ 87,665	・事務局視察、打合せ(市民参画型イベント手法)
計	100,000	12,335	△ 87,665	
5. 人件費				
(1)講師謝礼費	80,000	86,582	6,582	・自然観察会講師謝礼 ・里地里山学講座 講師宿泊費
(2)講師旅費	30,000	9,219	△ 20,781	
(3)手数料	0	864	864	
計	110,000	96,665	△ 13,335	
6. その他				
(1)消耗品費	150,000	104,425	△ 45,575	・事務消耗品等
(2)印刷費	50,000	106,920	56,920	
(3)飲料飲食費	30,000	21,927	△ 8,073	
(4)手数料	0	324	324	
計	230,000	233,596	3,596	
総計	2,370,000	2,370,007	7	

収入 2,370,007円 - 支出 2,370,007円 = 0円

監 査 報 告 書

平成29年度庄内自然博物館構想推進協議会の会計監査にあたり、収入支出に伴う収支決算書及び現金出納簿、収支関係証票、預金通帳を慎重に審査した結果、いずれも正確かつ適正であることを認めます。

平成30年3月30日

庄内自然博物館構想推進協議会
会長 櫻井 修治 様

庄内自然博物館構想推進協議会

監事 阿部 和明 印

監事 本間 松弥 印

(3) 平成30年度事業計画(案)について

1. 保全管理事業

- 1-1. 外来生物駆除(ウシガエル、アメリカザリガニ)
実施期間：4月～10月
実施場所：都沢湿地、下池周辺も検討
体制：有償活動(約180時間)
- 1-2. 外来植物駆除(セイタカアワダチソウ、ブタクサ、アメリカセンダングサなど)
実施期間：5月～10月
実施場所：都沢湿地、下池堤体(所有：西郷土地改良区)
体制：サポーター、地域、企業活動など(*活動状況を見ながら有償活動も検討)

1-3. 外来生物排除区域の設定

- 実施場所：都沢湿地北側区域
目的：都沢湿地内にウシガエルやアメリカザリガニが侵入できない区域を設置し、水性動植物の回復をはかる。
その他：本事業は2017年度 経団連自然保護基金採択事業。
2018年度はセブンイレブン活動助成にて採択。

- 1-4. 草刈り作業
実施期間：年3回(6, 8, 10月)
実施場所：都沢湿地
体制：有償活動(前年度は約190時間)
- 1-5. 湿地保全管理イベント事業
実施数：年5回(前年度は6回)
体制：保全管理ワーキンググループ
参加条件：サポーターおよび関係機関や地域住民
- 1-6. 湿地内のヨシ焼き
実施数：年1回(前年度は実施なし)
体制：事務局、スタッフおよび保全管理ワーキンググループ
内容：湿地の陸地化防止のため湿地内への火入れ
- 1-7. 巡視事業
実施期間：4月～3月
実施場所：高館山、下池湖畔、都沢湿地
体制：有識者への個人依頼(有償活動)

2. 自然学習事業

- 2-1. 自然観察会
実施数：年7回(前年度6回)
体制：講師およびスタッフ、サポーター
- 2-2. 里地里山学講座
実施数：年4回(前年度4回)
体制：講師：4回

2-3. 里地里山学講座 特別講座（今年度2回）

実施数：年2回

体制：講師：2回

2-4. 座談会

実施数：年4回（今年度2回予定）

体制：スタッフ、ワーキンググループ

内容：ラムサール条約登録湿地10周年の説明会などの実施

2-5. いのち学（3-5.こどもラムサールWSとして実施）

実施数：年1回（今年度1回）

体制：スタッフ、サポーター、講師1名

内容：外来生物駆除活動、その活用（食）を通して、命について考える。

2-6. アメリカザリガニ捕獲大作戦（2-1.自然観察会事業として実施）

実施数：年1回（前年度実施なし）

体制：スタッフ、サポーター、参加団体

内容：参加団体毎の都沢湿地全体のアメリカザリガニ駆除

2-7. 赤とんぼプロジェクト（2-1.自然観察会事業として実施）

実施数：イベントおよび団体対応事業

体制：スタッフ、サポーター、地域小学校

内容：赤とんぼの代表種であるアキアカネの羽化、避暑地、産卵を追うプロジェクト

2-8. 水辺のいきものスタンプカード事業

実施期間：4月～10月

内容：水網の貸し出しおよび水辺のいきもの学習事業

2-9. 自然散策会

実施数：春5回（前年度6回開催）

体制：里山案内人ワーキンググループ（仮）

内容：都沢湿地、下池、高館山を案内人と一緒に散策するイベント

2-10. どんこ広場活用事業

実施数：年2回

体制：地元保育園を招待、関係団体との共催事業

2-11. 学習発表会

開催日：2019年3月第1週の土曜日を予定

2-12. ワークショップ事業（有償）

目的：身近な自然環境への興味関心を高める若年層向け、親子向けWS

実施数：年10回

内容：野草茶づくり、ヨシ紙づくり

体制：サポーターおよび地域住民

参加条件：申込みあり、参加費あり

2-13. ワークショップ事業（無償）

目的：身近な自然環境への興味関心を高める若年層向け、親子向けWS

実施数：年10回

内 容：折り紙、童謡、絵本の読み聞かせ、いきものミッケなど

体 制：サポーター

参加条件：申込みなし、参加費なし

3. ラムサール条約登録湿地 10 周年記念事業

3-1. 実行委員会の発足

3-2. 写真コンテスト

募集期間：2018年7月23日～2018年8月24日

3-3. いきもの絵コンテスト

3-4. コハクチョウの初飛来日あてコンテスト 2018

募集期間：2018年8月～9月

3-5. こどもラムサール in 大山上池・下池

参加者：庄内地域の小学4年生～中学2年生までの児童、生徒

内 容：大山上池・下池の自然や歴史について調べる

3-6. アンケート調査

開催日：2018年4月～6月実施予定

3-7. シンポジウム

開催日：2018年11月10日（土）

内 容：基調講演、パネルディスカッション、ワークショップなど

3-8. プロモーションビデオ作成

協 力：フレームワークス写真事務所（斎藤圭介氏）

3-9. おうら愛鳥館のペンキ塗りおよび渡り鳥の壁画作成

協 力：東北芸術工科大学大学院生

その他：公益信託 庄内銀行ふるさと創造基金事業申請事業（採択待ち）

3-10. 普及啓発物の作成

①リーフレットの作成

②渡り鳥のぬいぐるみや帽子の作成

その他：公益信託 庄内銀行ふるさと創造基金事業申請事業（採択待ち）

4. 外部資金採択事業

4-1. セブンイレブン活動助成（採択決定）

①申請名「外来生物の低密度管理による持続可能な低湿地再生手法の検討」

②採択額：767,100円

4-2. 公益信託 庄内銀行ふるさと創造基金（申請中）

①申請名「大山上池・下池 ラムサール条約登録10年を機会に

考える湿地の魅力と体験ワークショップの開催！」

②申請額：290,000円

5. 里山活用事業

5-1. 薪確保作業

実施期間：4月～10月

体 制：スタッフ及び有償活動

5-2. 里山マルシェ

実施期間：年1回（9月実施予定）

体制：実行委員会体制

5-3. 外来生物活用プロジェクト

提供物：ウシガエル、アメリカザリガニ

提供店舗：鶴岡市内の飲食店提供予定

5-4. 湿地資源活用事業

体制：ワーキンググループ

内容：刈取りをする大型湿性草本のヨシやマコモの有効活用を検討

6. 展示事業

6-1. 企画展示

回数：年4回程度

内容：大山上池・下池、愛鳥週間、外来生物展示、水生昆虫展示など

6-2. 館内展示

里山情報掲示板や野鳥情報の更新

7. 調査研究

7-1. 大山上池・下池都沢湿地植生調査

委託：山形大学農学部 林田 光祐 教授

7-2. 大山上池・下池水質調査

委託：山形大学農学部 梶原 晶彦 助教

7-3. 都沢湿地のトンボ調査

調査依頼：水野重紀 氏（水野野生生物調査室）

7-4. 都沢湿地の水生昆虫調査

委託：コクーンワールド福島（副代表：三田村敏正 氏）

7-5. UAVによる湿地環境解析の可能性調査

飛行委託：フレームワークス写真事務所（斎藤圭介 氏）

7-6. 未利用資源（ヨシ）の生育および成分に関する研究

自主：山形大学農学部 作物生産学研究室（藤井教授、森准教授）

7-7. ワーキンググループ、サークルなどのサポーター調査活動

- ・ホタルの生息やギフチョウの産卵調査
- ・ハスの発芽および移植実験
- ・自動撮影装置による野生生物調査
- ・指標生物種のモニタリング調査
- ・高館山周辺の歴史文化
- ・里山の資源を活用した草木染め

8. 先進地視察事業

8-1. 里地里山先進地視察

開催：年1回程度、対象者：関係機関、サポーター、ほとりあ、環境課

9. 地域交流連携事業

9-1. 大山地域まつり連携事業

大山公園さくらまつり、大山新酒酒蔵まつりとの連携

9-2. 地域交流会 *旧お茶っこ会

対 象：大山地区住民及びサポーター

回 数：年 12 回（毎月開催、昨年度は毎月 1 回、年 12 回開催）

9-3. 高館山少年教室への協力

10. 連携事業

10-1. 森林文化都市関連施設連携事業

市内にある自然学習施設との連携事業を検討

11. 普及啓発物作成

11-1. 活動報告書の制作

2017 年度の年間活動報告書を作成

11-2. NEWS レターの作成

協議会および施設の 1 年間の活動を報告する誌面（年 1 回発行予定）

11-3. 施設および周辺自然情報リーフレットの作成

11-4. その他

缶バッジやぬいぐるみなど PR するグッズの開発

(4)平成30年度収支予算(案)について

平成30年度 セブン-イレブン記念財団 環境活動助成事業 予算(案)

【収入】

項目	申請額	採択額	増減	摘要
助成金	853,500	767,100	▲ 86,400	セブン-イレブン記念財団 環境活動助成
合計	853,500	767,100	▲ 86,400	

【支出】

項目	申請額	採択額	増減	摘要
消耗品費	29,808	29,808	0	アナゴ籠
活動報告費	81,000	81,000	0	湿地再生に関するリーフレット
建築設備工事	692,312	605,912	▲ 86,400	外来生物排除区域設置 資材一式
旅費	50,380	50,380	0	講師旅費・宿泊費
合計	853,500	767,100	▲ 86,400	

●その他助成事業

「公益信託 荘内銀行ふるさと創造基金」へ申請中（申請額：290,000円）。

寄附金事業について

1. 寄附金事業の概要と経過

寄附概要：以下の3点に該当する用途として寄附金を募集

- 【1】 都沢湿地の保全・再生のための環境整備
- 【2】 多様な生物が生きる湿地環境のため、外来生物を駆除
- 【3】 環境学習・環境教育に係る事業や、普及啓発物の開発

寄附手法：口座振込または持ち込み（3,000円以下は寄附金箱へ案内）

告知開始：平成29年8月9日（水）

2. 平成29年度 寄附金事業の報告

寄附金額：62,431円（平成30年3月31日現在）

平成29年度 寄附金額内訳

	件数	金額	備考（内訳等）
個人	4件	28,000円	
団体等	0件	—	
その他	2件	30,193円	ほとりあカウンター 寄附金箱 H29年8月～H30年3月末
		4,238円	2/2 市政報告会（東京）
計	6件	62,431円	

※寄附者による具体的な用途の希望は特になし

3. 平成30年度 寄附金事業

- ・本事業の広報・周知活動により力を入れたい。
- ・寄附金の用途：ラムサール条約登録湿地10周年記念事業費用に支出したい（環境学習・普及啓発用途等）。

(5) 平成30年度庄内自然博物館構想推進協議会の体制(案)について

■ 組織

(1) 庄内自然博物館構想推進協議会(年1回開催) 4月19日

(2) 運営委員会(年3回開催) 5月中旬、10月中旬、2月下旬

- ・ 構想及び中長期の計画を受けて、年次の運営計画(活動計画)を策定する。
- ・ 各事業、イベントの企画、実施はそれぞれのワーキンググループを基本とし、全体的な調整及び情報の共有を図る。

(3) 関係機関調整会議(必要に応じて随時開催)

- ・ 構想推進のため情報を共有し、課題について関係機関・団体等と調整を図る。

(4) ワーキンググループ

- ・ 同じ活動目標を持った運営委員及びサポーターはワーキンググループを設立することができることとし、事務局及び他のグループ間との連絡を密にする。

(5) サポーター制度

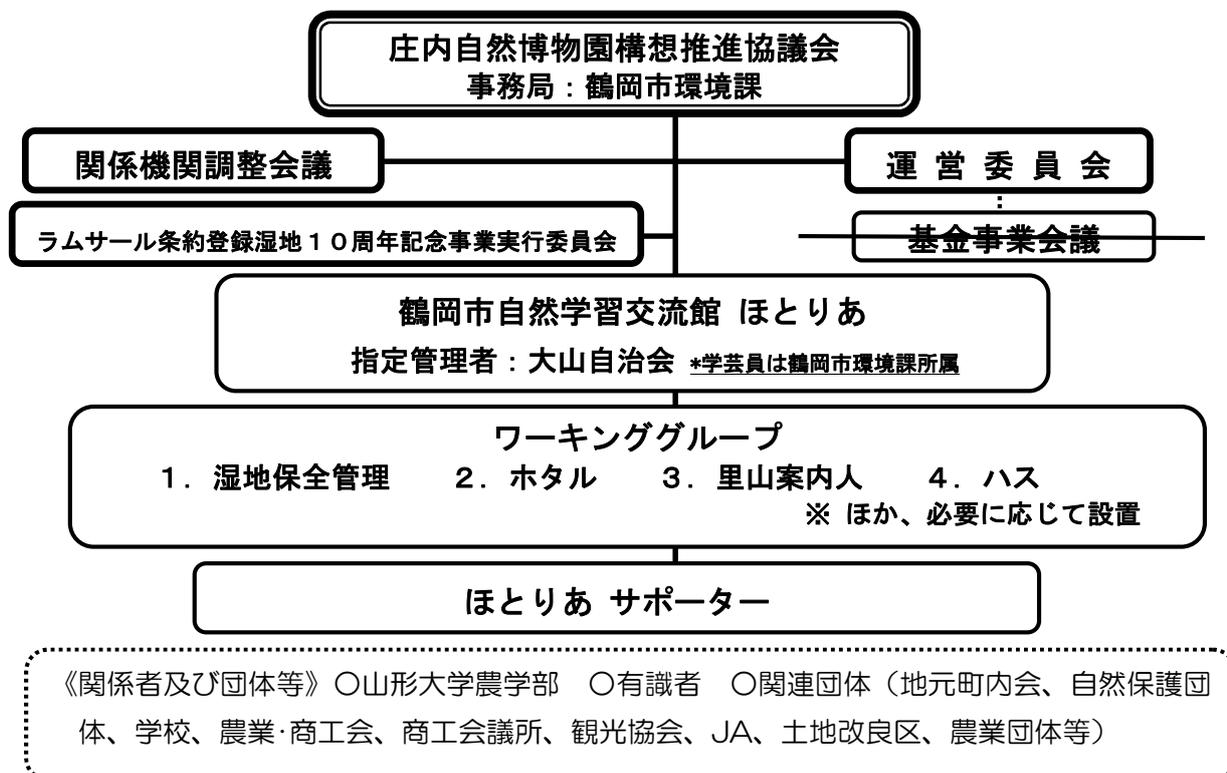
- ・ 事業の充実を図るために活動の補助を行うサポーター制度を実施する。
- ・ サポーターは高校生以上とし、里山の保全活動、自然環境教育、里山利活用推進の3つの活動を中心に、施設の運営補助などの活動を行う。
- ・ 1回のサポーター活動につき、1枚のサポーター券を配付する。

(6) 基金事業会議→削除

- ・ H30年度からは削除し、外部資金が必要な場合は協議会長や運営委員長に相談して申請することとしたい。

(7) ラムサール条約湿地登録10周年記念実行委員会(H30年度末まで)

- ・ H30年度に実施する記念事業に向けて期間限定で組織する。



庄内自然博物館構想推進協議会 ワーキンググループおよびサークルリスト

NO	分類	グループ名	設置目的	昨年度の活動内容	設置年月日	リーダー	構成員	備考
1	WG	保全管理	長年、都沢湿地の保全管理を行っている有識者により、湿地における課題を整理し、本地域の中長期的な保全管理計画を作成するため	<ul style="list-style-type: none"> 都沢湿地の保全管理計画の作成 年6回の保全管理イベントの実施 	2012年4月	林田光祐	8名	
2	WG	ホタル	ほとりあ周辺のホタル生息確認と本種の生息環境保全のためのWGを設置	<ul style="list-style-type: none"> 都沢湿地のホタル幼虫、成虫調査 ほとりあの自然観察会での講師 	2014年5月1日	斎藤由賀里	8名	
3	WG	里山案内人	来館者や散策者からの散策案内の希望にこたえられるように散策案内人制度を確立するためにWGの設置	<ul style="list-style-type: none"> 春に散策会の実施 	2016年4月1日	富樫捷士	6名	*2018年度より代表交代
4	WG	ハス	都沢湿地・どろんこ広場区域への正法寺水路のハスの移植及びハスの題材とした環境教育の実践	<ul style="list-style-type: none"> コンテナから実験区への移植作業 発芽実験ワークショップの実施 	2015年4月1日	植松芳平	6名	
5	サークル	高館山周辺の歴史と文化を知る会	高館山周辺の歴史や文化を調査し、地域資源として後世に伝えていく。	<ul style="list-style-type: none"> 「今、よみがえる 加茂坂峠古道」出版 大山小学校6年生の総合学習にて現地散策 	2013年5月1日	遠見昌圀	8名	*2018年度より代表交代
6	サークル	そめりあ	ほとりあのサポーターを中心とした草木染サークル。いくいくは、保全管理活動と協働での活動も検討している。	<ul style="list-style-type: none"> 草木染め活動 大山小学校4年生の総合学習やクラブ活動での草木染指導 	2016年4月1日	神田リエ	12名	
7	サークル	シダローズの会	ほとりあのサポーターを中心とした木工クラフトや手芸サークル。		2018年4月1日	石川文子	5名	*2018年度新規発足

(6) ラムサール条約登録湿地10周年記念事業について

1. 推進体制

事業の趣旨：本事業を通じ、市民に上池・下池とその周辺環境をより広く・より深く理解してもらうとともに、今後を考えるきっかけにもらう
ラムサール条約10周年記念事業準備委員会が平成30年1月に発足。
(運営委員会有志、ほとりあサポーター、市民により構成)
4月より同実行委員会と名称変更、5月に第1回委員会を開催予定。

2. 事業進捗と今後の計画 ※次P参照

(1) 拡充事業

コハクチョウ初飛来日あてコンテスト、里山マルシェ等、既存のほとりあ関連事業を10周年事業と位置づけて実施。



環境フェアつるおかへのブース出展
(ハスの実を使ったWS)

(2) 協議会事業

写真コンテストの告知を開始(別紙チラシ)。また関係者からの聞き取りや、昔の上池・下池の活用等についてのヒアリングを9個人・団体へ実施。

ドローン等を用いた上池・下池の紹介映像の作成を検討。



関係者ヒアリング

(3) 市民参画事業

小中学生を対象とした少人数制のワークショップ事業に着手。

3. 記念式典

日程：平成30年11月10日(土)

場所：出羽庄内国際村

詳細：今後の実行委員会で決定。

午前の部(子供を含む市民向けWS等、参画型)と午後の部(式典及びシンポジウム等)の2部構成を想定。

同日夜に祝賀会を予定(会場検討中)。

【ラムサール条約登録10周年記念事業】

平成30年4月現在の進捗と今後の計画

網掛けはH30年4月現在で実施済の事業、

網掛けは現在実施中、枠線は今後実施予定。

(1) 拡充事業

1-1. コハクチョウ初飛来日あてコンテスト

7月下旬より募集を開始し246通の応募。
10月4日の初飛来日を当てた19名から抽選で1名（鶴岡市・小学生女子）を一日館長として任命した。

1-2. 里山マルシェ 2017（9月18日）

テーマを「湿地の植物の活用」とし、ハスの葉を用いたイベントや赤とんぼクラフト作成等、湿地の恵みに関する内容を盛り込んで開催した。

1-3. 環境フェアつるおか 2017（9月24日）

ラムサール条約登録湿地の紹介やコハクチョウ等の渡り鳥に関する展示を行った他、ハスの実を使ったワークショップを開催した。

H30年度についても、関連する既存事業を拡充事業と位置づけて実施予定。

(2) 協議会事業

2-1. 写真コンテスト

「大山上池・下池、高館山、都沢湿地の自然を写真で残そう！」
チラシを市内写真店等で配布中（12月より）。子供向けとして絵画コンテストを検討。

2-2. アンケート調査

H20年に上池と下池が登録されてどうなったのか。回収までに1カ月程度の期間を想定。対象者は市内小学校の高学年家庭等を想定（H23年度には博物園構想に関するアンケート実績あり）。H30年度実施予定。

2-3. 関係者ヒアリング

登録10周年を迎え関係者からの意見の聞き取りを行う。②-2のアンケート事業と補完しあいながら、登録後の市民の興味関心や今後の事業展開を検討する。
H29年度現在、9団体・個人からのヒアリングを実施済。今後ヒアリングの継続及びとりまとめ手法を検討。

(3) 市民参画事業

3-1. 準備委員会【実行委員会】

準備委員会をH30年1月24日に開催、サポーター等による意見交換会を2月15日に開催。両会での意見を元に事務局案をまとめ、実行委員会で提示。

3-2. ワークショップ事業

こどもWS&おとなWS

こどもWS：上池・下池及び周辺環境の保全活用に今後どのように取り組んでいくか、市民からの意見を募る。
小学4年生～中学生が10名程度参加。観察会等を通じ意見や要望を出す。
おとなWS（仮）：H30年度実施予定、詳細検討中。

3-3. 記念式典

H30年11月10日（土）に開催予定。